

「公共建築の日」2025 フォトコンテスト

受賞作品集

——人が集^{っど}う建物——

「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会
一般社団法人公共建築協会 北海道地区事務局

<https://www.pbaweb.jp/association/branch/hokkaido/photocon/>

「公共建築の日」2025 フォトコンテスト 審査結果報告

本年のフォトコンテストは、2025（令和7）年7月1日に応募要項を発表し、応募部門を「デジタルカメラ部門」、
「携帯・スマホ部門」の2部門で、2024（令和6）年10月以降に撮影した作品を対象に、「人が集う建物」をテーマ
として本年7月1日から同年9月30日まで応募を受け付けました。

その結果、デジタルカメラ部門は昨年と同程度の応募になりましたが、「携帯・スマホ部門」は1.3倍に増え、毎
年応募が増えています。多数の応募を頂いたことにお礼申し上げます。

「デジタルカメラ部門」 63点（2024[令和6]年：67点）

「携帯・スマホ部門」 88点（2024[令和6]年：70点）

2025（令和7）年10月17日に開催された審査委員会において、厳正なる審査の結果、次の作品が選考されました。
来年のフォトコンテストに引き続き多数の応募を賜ることを実行委員会一同祈念しております。

「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会
（事務局：一般社団法人公共建築協会北海道地区事務局）

● 受賞作品一覧

【デジタルカメラ部門】			
賞	作品タイトル	対象公共施設	受賞者氏名（在住地）
グランプリ	映える赤レンガ庁舎	赤レンガ庁舎（北海道庁旧本庁舎）	只石 秀樹（札幌市）
準グランプリ	ガラスのピラミッド ～モエレ山山頂から	ガラスのピラミッド（モエレ沼公園）	伊藤 聡子（札幌市）
準グランプリ	「余韻と共に」	Kitara（札幌コンサートホール）	郡 隆宏（南幌町）
佳作	市民の憩いの場	小樽市民会館	松崎 真也（札幌市）
佳作	銀杏に染まるキャンパス	北海道大学工学部 共用実験棟 建築都市スタジオ棟	山内 佳子（札幌市）
佳作	夏休み	釧路市こども遊学館	大和田 礼（釧路市）
佳作	朝の社交場	豊平館（中島公園）	原 聡彦（札幌市）
【携帯・スマホ部門】			
賞	作品タイトル	対象公共施設	受賞者氏名（在住地）
特選	春宵一刻 ～夜桜に魅せられて～	五稜郭タワー	田中 秀樹（札幌市）
入選	桜満ちる天文台	札幌市天文台	藤原 睦（札幌市）
入選	つづくテラス	赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）	小川 遥哉（札幌市）
入選	北海道？異世界？	赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）	大場 悠晴（札幌市）
奨励賞	水辺の宮殿	豊平館（中島公園）	木村 潤子（札幌市）
奨励賞	今と昔	赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）	小川 祐花（札幌市）
奨励賞	時を運ぶ馬車	旧浦河支庁庁舎（北海道開拓の村）	金 昭賢（東京都）
奨励賞	未来へ向けて！	札幌駅	大場 蓮介（札幌市）

●「公共建築の日」2025 フォトコンテスト審査委員会

(敬称略)

委員長	佐藤 雅英	(公社)日本写真家協会会員 NPO 法人北海道を発信する写真家ネットワーク顧問
委員	滝本 悦郎	国土交通省北海道開発局営繕部長
	松本 周介	国土交通省北海道開発局営繕部営繕計画課長
	清水 浩史	北海道建設部建築局建築整備課長
	松本 丈史	札幌市都市局建築部建築保全課長

● 審査風景



「公共建築の日」2025 フォトコンテスト総評

審査委員長 ● 佐藤 雅英



「公共建築の日」フォトコンテストは、2003（平成 15）年に第 1 回を開催して以来、「建築と人間のかかわり」を主題に各年で関連するテーマを設定し、実施してきた。建築は人に利用され、愛されることによりその価値が高まっていくとの認識にたっているものである。新型コロナの感染拡大の影響が憂慮され、「建築と自然」を主題とした時期もあったが、2024 年から本来の募集テーマに戻し公共建築を題材に風景や、そこに集う人たちの様子などの魅力ある写真を期待し、今年も募集テーマを「人が集う建物」とした。23 回目を迎えた「公共建築の日」フォトコンテストは、151 点もの作品が寄せられた。参加者の年齢構成は 10 代から 70 代までと幅広く、道内はもとより道外からの参加もあり、このコンテストが広く認知されてきたことを感じる。撮影対象も全道に広がり、歴史的な建築や身近な公共建築などさまざまであった。全体的にレベルの高い作品が多く、応募いただいた皆様に心より感謝申し上げたい。

今回の応募作品はどれもが力作で、歴史的建築、現代建築それぞれの建物の捉え方に特徴があり、新たな着眼点による構図、光のとらえ方の工夫などいずれも優劣つけがたい作品ばかりであった。「どの作品をどう評価するかは後日、審査する側が審査されることになる」を肝に銘じ、審査員を悩ませながらも楽しくかつ厳正に審査が行われた。その結果、今回の受賞作品は、その中にあっても建物の設計意図や特徴をうまく表現でき人々と公共建築との関りが感じられる作品、建築物を際立たせる画面構成の巧みさや光のとらえ方、建築と時代の関りを映し出すタイムリーさの優れたものなどが選考されることになった。詳細については講評をお読みいただきたい。

来年の「公共建築の日」フォトコンテストでは、先人が築いた道内の歴史的建築遺産を含め北海道内各地の身近な公共建築のもつ多様性を素材として生かし、多くの人々とのふれあいが表現されている作品が多く寄せられることを期待している。

PROFILE

1946 年稚内市生まれ、札幌在住。（公社）日本写真家協会会員、NPO 法人北海道を発信する写真家ネットワーク顧問。国内外の芸術家、文化人、匠の肖像、都市の歴史、建築、文化などを撮り続け、東京コダックフォトサロン、韓国、日本大使館広報文化院、中国魯迅美術館などで数多くの写真展を開催。特に 2001 年同時多発テロ前後を捉えた『NEW YORK NEW YORK Peace and Love』は話題となる。2000 年、現代日本の写真（ARTBOX international）日本を代表する写真家 110 名に選抜される。2014 年、パリ日本年日本選抜作家展（フランス・パリ「モナリザギャラリー」）、2015 年、「目で楽しむ音楽展」（札幌芸術の森美術館）、2016 年、500m美術館 Vol.18「記憶と記録の札幌」（地下歩道空間）。

デジタルカメラ
部門
グランプリ

映える赤レンガ庁舎

只石 秀樹（札幌市）

赤レンガ庁舎（北海道庁旧本庁舎）



建物の色の綺麗さが際立つように撮影されている。逆光をうまく使って木の葉の柔らかい緑が赤レンガの色を際立たせていて、構図も良く、とても綺麗な写真となっていて素晴らしい作品である。

携帯・スマホ
部門

特選

春宵一刻～夜桜に魅せられて～

田中 秀樹（札幌市）

五稜郭タワー



桜の色といい、空の色といい写真全体の配色が綺麗である。構図・トリミングも大胆で良い。桜がメインのように見えるが後ろにある建物もしっかりと存在を主張して浮かび上がっている。それぞれが持つ色をうまく表現できている良い作品である。

デジタルカメラ
部門

準グランプリ

ガラスのピラミッド～モエレ山山頂から 伊藤 聡子（札幌市）

ガラスのピラミッド（モエレ沼公園）



撮影のアングルが素晴らしい。ガラスのピラミッドの中が見えるような光の差し込む夕刻のタイミングを狙っているのがこの写真の良さであり、周辺のロケーションも良くあらわされている。

デジタルカメラ
部門

準グランプリ

「余韻と共に」

郡 隆宏（南幌町）

Kitara（札幌コンサートホール）



建物の特徴を良くとらえている作品である。天井にフォーカスしラインを上手くとらえており、タイトル通り演奏が今終わって余韻に浸っているということを伝えたいという作者の意図が強く表された作品である。

デジタルカメラ
部門
佳作

市民の憩いの場

松崎 真也（札幌市）

小樽市民会館



階段を見下ろした構図が、床の赤い絨毯の色が非常に効果的である。人物は入っていないが、非常にレトロな雰囲気が伝わってくる構図的に面白い作品である。

デジタルカメラ
部門
佳作

銀杏に染まるキャンパス

山内 佳子（札幌市）

北海道大学工学部 共用実験棟 建築都市スタジオ棟



ガラスカーテンウォールに映り込んだ黄色と残された緑のコントラストが良い。構図的なバランスを二人の人物が良いものにしている。

デジタルカメラ
部門
佳作

夏休み

大和田 礼（釧路市）

釧路市こども遊学館



子供がいて夏休みのひと時を表現した写真である。子供の表情が窺えたり、動きがあれば面白くなったと思う。建物の上の部分が見えると更に良かった。

デジタルカメラ
部門

朝の社交場

佳作

原 聡彦（札幌市）

豊平館（中島公園）

朝の爽やかな光を感じられる作品である。水面に建物の影もゆがみなく綺麗に映っていて柔らかな朝日と朝の集いに集まった人達のさりげなさが良い印象となっている。



携帯・スマホ
部門

桜満ちる天文台

藤原 睦（札幌市）

入選

札幌市天文台



曇天の優しい光が色のコントラストが強くなるのを抑え、建物に影を作らず、桜の色と緑色を美しく際立たせた良い作品となっている。ただ、構図的にも色彩的にも下部の緑の部分を多くして桜の範囲を2割程度少なくできたら、落ち着いた印象となり天文台が生きた写真になったと思う。

携帯・スマホ
部門

つづくテラス

小川 遥哉（札幌市）

入選

赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）

撮影のアングルが良い。構図の全体のバランスも良く、この撮影ポイントに気づいたことは素晴らしいと思う。八角塔のバルコニーは北3条通へつながるようなイメージで作られているが、丸い窓をイメージしたアールを入れたのが非常に良い。



携帯・スマホ
部門

入選

北海道？異世界？

大場 悠晴（札幌市）

赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）



初雪のような、新雪のような雪が良い。サッと降った後のような北海道らしい作品。レンガ色は雪が映え、太陽がちょうど雲にかかった時に撮影されているので光が柔らかくなり、八角塔がいい色になっている。光の捉え方が素晴らしい。

携帯・スマホ
部門

奨励賞

水辺の宮殿

木村 潤子（札幌市）

豊平館（中島公園）



オーソドックスな写真ではあるが、全体的に非常にまとまっている。人の配置や光の捉え方、構図などまとまりのある作品。桜はあるが豊平館の建物の色がスッキリしており、人のバランスがちょうど良く綺麗な作品である。

携帯・スマホ
部門

今と昔

奨励賞

小川 祐花（札幌市）

赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）

赤レンガ庁舎の窓枠などの古い感じと、赤レンガテラスなど新しいビルなどとの対比でタイトルを表現し、作品への思いこめられている作品。暗いところから明るい外をとっているところもポイントで、暗い部分が入っていることでより良い作品となっている。



携帯・スマホ
部門

時を運ぶ馬車

奨励賞

金 昭賢（東京都）

旧浦河支庁庁舎（北海道開拓の村）



オーソドックスの写真ではあるが、馬の位置と建物の場所が合っており、タイムスリップしたような作品。開拓の村という場所の雰囲気を出している作品である。

携帯・スマホ
部門

未来へ向けて！

奨励賞

大場 蓮介（札幌市）

札幌駅

今しか撮れない写真、時代の記憶を残すという、狙い処がはっきり表現されている作品。とてもタイムリーな作品である。



「公共建築の日」……公共建築が国民生活に一層密着したより良いものとなることを目指し、建築の基本的な構造を象徴する4本の「柱」のイメージや国会議事堂の完成（昭和11年11月）などから、11月11日を「公共建築の日」、そして11月を「公共建築月間」とし、さまざまなイベントを実施しています。「公共建築の日」や「公共建築月間」についてはウェブサイト（https://www.pbaweb.jp/pb_date/events/）をご覧ください。

「公共建築の日」2025 フォトコンテスト

受賞作品集

<https://www.pbaweb.jp/association/branch/hokkaido/photocon/>



本作品集に掲載された写真、文章等を、
一般社団法人公共建築協会ならびに著作権者の承諾なしに
無断で複写またはスキャニング、データベースへの入力、
インターネットでの掲載等を行うことを禁じます。

© 2025 一般社団法人公共建築協会